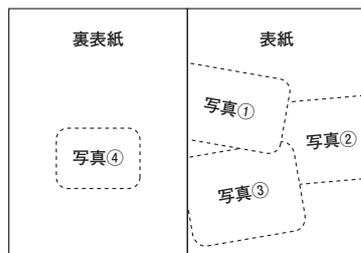


文部科学省シンボルマーク

文部科学省シンボルマークは「羅針盤」をモチーフとしています。教育、科学技術・学術、スポーツ、文化の振興を通じて、希望に満ちた未来を目指す、文部科学省の役割を表しています。上部の円は進むべき方向を象徴し、その使命を見失うことなく、誠意と熱意をもって任務に専心する姿勢を示しています。下部の円の中央から放射状に広がる直線は、社会に開かれた文部科学省の姿勢を表現しています。同時に、親しみやすい簡潔なデザインからは、人、地球など、様々なイメージへと自由に連想を広げることができます。

色彩は日本人に古来なじまれてきた青色を基調として、「瑠璃（るり）色」と「空色」を使用しました。「瑠璃色」は強い意志、品格と知性、「空色」は誠意と未来への広がりという意味しています。

このシンボルマークは、国民の皆様とのコミュニケーションを深めていくための取組の一環として、平成20年1月の新庁舎への移転を機会に制定されたものです。文部科学省は、このマークに込められた意味を忘れることなく、任務に取り組んでまいります。



写真① リオデジャネイロオリンピックで金メダルを獲得した体操男子団体総合

写真② 裏磐梯の檜原湖でいかだにチャレンジする子供たち

[写真提供：国立磐梯青少年交流の家]

写真③ リオデジャネイロパラリンピックで銅メダルを獲得したウィルチェアーラグビー

写真④ 第41回全国高等学校総合文化祭（2016ひろしま総文）で盛大なパレードを披露し、約1万8千人の観客を魅了する各都道府県代表の高校生